

農禊

特別
A5
6673
68
早稲田大学図書館



安永六丁酉天

歳後

中之鳴連中



聖節

喜まのあゝき多ふ家子
盛すの折々

あゝき多ふ家子

其律

あゝき多ふ家子

業旦

之於やうふふ心と語もあま 所需

大娘や勿神舞一と膝のうへ 松尾

丸心のうをねとくくろのうが吾候 雑白

明初やいふうあそも 中条 妻雨

いふやふれもとくまなり福寿村 安先

れう清心く足道いふふ初霧 文者

雪月と後わく候一我も人も 若羊

あゝき多ふ家子 中条

行くるまよのしゆちも初夜 芋焼

甲斐の心

あしうなるやと一昨年の浪 芋焼

うたふまうくと梅のかき家 其後

子あまのいゝあひまふかして 其後

忠告と新ひまねの折し 其後

数夜とくわゆるもきやふり焼 其後

まらぬぬんくしるむらり 其後

多分のゆめをたふ 其の身 楽し

ありとあしやのいゝあま 松原

心表

一とせのまはらぬあまやうふ

まらぬぬんくしるむらり

晴ぬ
うらみ

さあまのまらぬ
あまのいゝあま

心表

あまのいゝあま

晴ぬ

あまのいゝあま

